



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月5日

上場会社名 株式会社ハーツユニテッドグループ 上場取引所 東
 (株式会社デジタルハーツ)
 コード番号 3676 URL <http://www.heartsunitedgroup.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 宮澤 栄一
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 (氏名) 風間 啓哉 (TEL) 03(6406)0081
 四半期報告書提出予定日 平成25年11月11日 配当支払開始予定日 平成25年12月6日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家及びアナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	4,659	56.4	858	143.8	859	140.8	502	155.6
25年3月期第2四半期	2,978	13.8	352	△24.2	356	△23.0	196	△19.6

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 503百万円(157.0%) 25年3月期第2四半期 195百万円(△16.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	42.66	42.07
25年3月期第2四半期	16.95	16.47

- (注) 1. 上記連結経営成績は、株式会社デジタルハーツの連結経営成績であります。
 2. 株式会社デジタルハーツは、平成24年7月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。また、平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	5,450		3,213			58.8
25年3月期	4,861		2,786			56.7

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 3,205百万円 25年3月期 2,754百万円

(注) 上記連結財政状態は、株式会社デジタルハーツの連結財政状態であります。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	6.00	—	5.00	—
26年3月期	—	7.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	6.00	13.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

- (注) 1. 株式会社デジタルハーツは、平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。そのため、平成25年3月期第2四半期末の配当金につきましては、当該株式分割前の数値を記載しております。
 2. 平成26年3月期第2四半期末の配当実績は、株式会社デジタルハーツの配当実績であります。
 3. 平成26年3月期末の配当予想は、株式会社ハーツユニテッドグループの配当予想であります。

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,777	42.0	1,660	67.1	1,658	66.4	956	65.0	80.91

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 上記連結業績予想は、株式会社ハーツユニテッドグループの平成26年3月期の連結業績予想であります。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	11,862,600株	25年3月期	11,617,800株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	2株	25年3月期	—株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	11,778,469株	25年3月期2Q	11,599,872株

- (注) 1. 上記発行済株式数は株式会社デジタルハーツの発行済株式数であります。
 2. 株式会社デジタルハーツは、平成24年7月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。また、平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 株式会社ハーツユナイテッドグループは、平成25年10月1日に単独株式移転の方法により、株式会社デジタルハーツの完全親会社として設立されました。
 そのため、平成26年3月期の通期連結業績予想及び期末配当予想は株式会社ハーツユナイテッドグループの予想であります。
 なお、平成26年3月期の通期連結業績予想につきましては、平成25年10月1日に公表致しました内容から変更しております。詳細につきましては、本日(平成25年11月5日)公表の「平成26年3月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)の6ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- 当社は、平成25年11月6日に機関投資家及びアナリスト向けの四半期決算説明会を開催する予定です。この説明会で配布する四半期決算説明資料については、開催後速やかに株式会社ハーツユナイテッドグループのホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	7
3. 四半期連結財務諸表	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(セグメント情報等)	13
(重要な後発事象)	15
4. (参考)株式会社デジタルハーツ 四半期財務諸表(個別)	19
(1) (参考)株式会社デジタルハーツ 四半期貸借対照表(個別)	19
(2) (参考)株式会社デジタルハーツ 四半期損益計算書(個別)	
第2四半期累計期間	20
5. 補足情報	21
(1) 生産、受注及び販売の状況	21

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、金融緩和等の各種経済政策による円高の是正などを背景に、消費者マインドの改善に加え一部で雇用・所得環境に持ち直しの動きがみられたものの、企業の積極的な設備投資や本格的な雇用創出等の実態経済の回復までには至らず、経済環境は依然として不透明な状況で推移致しました。

このような状況のもと、当社グループの主な顧客企業であるメーカーや開発会社は、高品質かつスピーディな開発需要を背景に、発売までの限られた期間において十分に不具合を検出することが必要不可欠となっており、デバッグ工程のアウトソーシングが拡大する傾向にあります。

このため、当社グループでは、国内外で増加傾向にあるデバッグ需要及び多様化する顧客ニーズに対応したサービス展開に注力して参りました。

その具体的な取り組みとして、平成25年4月には、情報資産を守る「サイバーセキュリティサービス」を開始し、また、平成25年7月にはウェブルート株式会社の協力のもと、Android端末向けモバイルセキュリティソフトの開発を開始するなど、サービス範囲の拡充にも取り組んで参りました。さらに、デバッグサービスにおいては開発が活発化しているネイティブアプリやパチスロ等の新規案件を獲得したほか、新サービスの「サイバーセキュリティサービス」においては自由民主党より本サービスの受注を獲得するなど、営業活動にも積極的に注力して参りました。

また、デバッグ事業の全リレーションにおいてデバッグ需要が大幅に増加したことから、それらの受注に対応すべく、国内最大規模の主要拠点である笹塚Lab. (ラボ)の増床や京都Lab. (ラボ)の移転及び拡張を進めるとともに、米国子会社であるDIGITAL Hearts USA Inc. においても、受注活動の順調な進展に伴い、オフィスを従来の2倍の規模に増床するなど、受注体制の強化及び人材確保に努めて参りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、4,659,121千円(前年同四半期比56.4%増)、営業利益は858,817千円(前年同四半期比143.8%増)、経常利益は859,122千円(前年同四半期比140.8%増)、四半期純利益は502,500千円(前年同四半期比155.6%増)となりました。

■連結業績

	平成25年3月期 第2四半期	平成26年3月期 第2四半期	増減率
売上高	2,978,716千円	4,659,121千円	56.4%
営業利益	352,292千円	858,817千円	143.8%
経常利益	356,728千円	859,122千円	140.8%
四半期純利益	196,615千円	502,500千円	155.6%

なお、株式会社デジタルハーツは、平成25年10月1日より、単独株式移転の方法により設立された純粋持株会社である株式会社ハーツユナイテッドグループの完全子会社となっております。

セグメント別の状況は、以下のとおりであります。

なお、各セグメントの売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めて記載しており、セグメント利益は営業利益ベースとなっております。また、前期に実施した報告セグメントの変更

に伴い、セグメント業績の前年同四半期比較は、前期数値を変更後の報告セグメントに組み替えて行っております。

① デバッグ事業 売上高 4,163,360千円、セグメント利益 1,258,451千円

当セグメントにおいては、顧客企業が求める、不具合のない高品質な製品の開発に貢献すべく、製品の品質保持及び品質向上に必要な不可欠な最終チェックであるデバッグ工程のアウトソーシングサービスを提供しております。

(i) デバッグ事業：コンシューマゲームリレーション 売上高 1,615,764千円

日本国内のコンシューマゲーム市場における当第2四半期連結累計期間のゲームソフトの販売市場は前年同期比87.6%(平成25年9月末時点、エンターブレイン調べ)と縮小したものの、「ニンテンドー3DS™」の普及や「PlayStation®4」等の新型ハードの登場及び年末商戦に向け有力タイトルの発売が予定されていることにより市場の盛り上がりが見込まれております。

このような状況のもと、当社グループの顧客企業においては、それらの新型ハードに向けたタイトル開発はもとより、次世代機への端境期であることも相俟って既存ハード向けにもタイトルの開発が進んでおり、さらに、複数のハードで同時発売されるタイトルが増加傾向にあることから、デバッグ工程のアウトソーシング化が加速しております。

このため、家庭用ゲーム向けデバッグ需要が拡大しており、当社グループでは、それらのデバッグニーズの取り込みに努め、受注体制の強化及び高品質なサービス提供に注力して参りました。

また、デバッグ業務のみならず、スケジュールやオペレーションの統制等の品質管理工程に関する総合的なサービス提供を通じ、既存顧客との関係強化に努めたことにより、開発早期段階からのデバッグ体制を確立し、長期にわたる大型案件を受注することができました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業のうちコンシューマゲームリレーションの売上高は1,615,764千円(前年同四半期比34.0%増)となりました。

(ii) デバッグ事業：デジタルソリューションリレーション 売上高 1,385,812千円

スマートフォンやスマートタブレットの普及により活性化をみせるモバイルコンテンツ市場においては、今後も引き続きソーシャルゲームをはじめとするスマートフォンアプリ開発の世界規模での成長が見込まれております。

このような状況のもと、ソーシャルゲーム市場では、ゲーム性を追求した表現の自由度が高いネイティブアプリ開発への移行により、開発タイトル規模の増大が進むとともに、新たなプラットフォームの確立等を背景に引き続き開発タイトル数が増加しております。

このため、ソーシャルゲーム案件においては、引き続きプラットフォーマーをはじめとするソーシャルゲーム開発会社及び家庭用ゲームメーカーより、従来のブラウザ上で動作するゲーム案件の受注に加え、ダウンロード型であるネイティブアプリのゲーム案件の受注も増加致しました。

また、顧客満足度の向上を図り品質を追求したサービス提供に努めたことにより、大手顧客企業からのアウトソーシング比率が上昇し、取引規模が拡大するとともに、新たに信頼を獲得した顧客企業からも安定的に案件を受注することができました。

これにより、モバイルコンテンツにおいては、顧客企業からのリピート率が向上し、大型案件及び継続的な案件が大幅に増加し、受注が好調に推移致しました。

さらに、システム検証案件における受注体制の強化による新規顧客開拓や、サイバーセキュリティサービス等の新サービスの開発を通じ、事業領域の拡大に努めて参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業のうちデジタルソリューションリレーションの売上高は前年同四半期を大幅に上回り、1,385,812千円(前年同四半期比71.2%増)となりました。

(iii)デバッグ事業：アミューズメントリレーション 売上高 1,161,783千円

日本国内の遊技機業界では、パチンコ設置台数は減少傾向にあるものの、パチスロ設置台数は緩やかに増加しており、今後もこの傾向は継続するものと予想されております。

このような状況のもと、当社グループでは、シェア拡大のため、効率的なデバッグ体制を提案するなど顧客企業との関係を強化した営業活動に努めるとともに、サービス品質の統一及び向上を目的とした積極的な人材育成に取り組んで参りました。

また、デバッグに関連するサービスの拡充を推進し、付加価値の高いサービス提供に努め、顧客企業からの信頼獲得を実現して参りました。

さらに、好況であるパチスロ市場においてパチスロ案件の受注増加を図るべく営業活動に注力し、新規顧客開拓及び既存顧客に対する新規案件の受注獲得に努めて参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業のうちアミューズメントリレーションの売上高は1,161,783千円(前年同四半期比39.1%増)となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のデバッグ事業の売上高は4,163,360千円(前年同四半期比46.1%増)、セグメント利益は1,258,451千円(前年同四半期比66.9%増)となりました。

② メディア事業 売上高 259,681千円、セグメント利益 26,933千円

当セグメントにおいては、日本最大級の総合ゲームサイト「4Gamer.net」の運営を通じ、サイト上でゲームメーカーをはじめとする顧客企業に広告サービスの提供を行うことで、顧客企業のプロモーション活動を支援しております。

当サイトでは、独自取材による付加価値の高い情報をスピーディに配信することで、メディアとしての信頼性の維持及び向上に努め媒体力の強化を図って参りました。

その具体的な取り組みとして、平成25年5月にはスマートフォン向けサイトを開設するなど、ユーザーとの接点の強化に取り組むとともに、Electronic Entertainment Expoや東京ゲームショウ等のゲーム関連イベントにおいて積極的な取材活動を通じ、ユーザーが求める情報配信に努めて参りました。

また、これまで培ってきたユーザーへの発信力及び影響力を活かし、顧客企業からの長期契約案件の獲得に注力し、安定した収益の拡大に努めて参りました。

その結果、当第2四半期連結累計期間のメディア事業の売上高は259,681千円、セグメント利益は26,933千円となりました。

③ その他 売上高 255,412千円、セグメント損失 △44,840千円

当社グループでは、多様な収益源を確保することにより安定的な事業の成長を図るべく、新しいマーケットへの参入や事業ノウハウを活用した新規事業の開発に積極的に取り組んでおります。

その他の事業では、ゲーム開発のサポートを行う「開発アウトソーシング事業」、映像加工技術全般に関するサービスを提供している「映像制作事業」、不具合情報のポータルサイトを運営する

「Fuguai.com事業」、クリエイターの育成支援を行う「デジタルハーツ・クリエイターズ・ネットワーク事業」等の業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、その他の事業の売上高は255,412千円、セグメント損失は△44,840千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産の残高は4,241,645千円となり、前連結会計年度末における流動資産3,607,705千円に対し、633,940千円の増加(前期比17.6%増)となりました。

これは、主として現金及び預金が333,379千円増加したこと並びに受取手形及び売掛金が261,894千円増加したことによるものであります。

固定資産の残高は1,208,962千円となり、前連結会計年度末における固定資産1,253,494千円に対し、44,532千円の減少(前期比3.6%減)となりました。

これは、主としてのれんが37,743千円減少したことによるものであります。

(負債)

流動負債の残高は2,225,006千円となり、前連結会計年度末における流動負債2,055,021千円に対し、169,984千円の増加(前期比8.3%増)となりました。

これは、主として未払法人税等が81,998千円増加したこと及び未払費用が70,163千円増加したことによるものであります。

固定負債の残高は12,066千円となり、前連結会計年度末における固定負債19,209千円に対し、7,143千円の減少(前期比37.2%減)となりました。

これは、主として資産除去債務が3,091千円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産の残高は3,213,536千円となり、前連結会計年度末における純資産2,786,968千円に対し、426,567千円の増加(前期比15.3%増)となりました。

これは、主として期末配当の実施に伴い利益剰余金が58,089千円減少した一方で、四半期純利益の計上により利益剰余金が502,500千円増加したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は2,518,052千円となり、前連結会計年度末における資金2,184,673千円に対し、333,379千円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローとそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は478,615千円(前年同四半期は137,622千円の支出)となりました。

これは、主として税金等調整前四半期純利益849,105千円の計上に加え、減価償却費62,246千円及びのれん償却額37,743千円の非現金支出費用や、未払費用の増加額69,608千円等の資金増加項目が、法人税等の支払額274,544千円及び売上債権の増加額261,241千円等の資金減少項目を上回ったことによるも

のであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は90,365千円(前年同四半期は11,326千円の支出)となりました。

これは、主として案件の増加に伴うデバッグ機材の購入等の有形固定資産の取得による支出69,536千円及び京都Lab.(ラボ)移転等に伴う敷金及び保証金の差入による支出65,517千円等の資金減少項目が、投資有価証券の売却による収入49,020千円等の資金増加項目を上回ったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は57,623千円(前年同四半期は61,607千円の支出)となりました。

これは、主として配当金の支払額57,847千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の受注動向等の業績を踏まえ、平成25年10月1日に公表致しました通期の連結業績予想を修正致しました。なお、当該予想数値の修正に関する事項は、本日(平成25年11月5日)公表の「平成26年3月期 通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,184,673	2,518,052
受取手形及び売掛金	1,273,746	1,535,640
たな卸資産	8,986	29,313
その他	143,562	159,850
貸倒引当金	△3,262	△1,210
流動資産合計	3,607,705	4,241,645
固定資産		
有形固定資産	262,811	268,340
無形固定資産		
のれん	503,250	465,506
その他	105,623	102,806
無形固定資産合計	608,873	568,313
投資その他の資産		
その他	381,809	380,366
貸倒引当金	—	△8,058
投資その他の資産合計	381,809	372,308
固定資産合計	1,253,494	1,208,962
資産合計	4,861,199	5,450,608
負債の部		
流動負債		
短期借入金	1,000,000	1,000,000
未払費用	433,147	503,310
未払法人税等	284,125	366,123
賞与引当金	27,021	36,699
その他	310,726	318,872
流動負債合計	2,055,021	2,225,006
固定負債		
資産除去債務	3,871	779
その他	15,338	11,286
固定負債合計	19,209	12,066
負債合計	2,074,230	2,237,072
純資産の部		
株主資本		
資本金	274,167	276,094
資本剰余金	234,166	236,093
利益剰余金	2,227,777	2,672,189
自己株式	—	△4
株主資本合計	2,736,111	3,184,372
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,272	2,473
為替換算調整勘定	15,465	18,210
その他の包括利益累計額合計	18,738	20,683
少数株主持分	32,118	8,479
純資産合計	2,786,968	3,213,536
負債純資産合計	4,861,199	5,450,608

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	2,978,716	4,659,121
売上原価	1,982,469	3,016,521
売上総利益	996,246	1,642,599
販売費及び一般管理費	643,954	783,781
営業利益	352,292	858,817
営業外収益		
受取利息	144	557
受取配当金	575	191
投資事業組合運用益	—	3,077
助成金収入	4,583	340
その他	3,027	3,004
営業外収益合計	8,331	7,170
営業外費用		
支払利息	822	2,844
投資有価証券売却損	—	763
投資事業組合運用損	1,413	—
為替差損	1,557	1,524
その他	102	1,733
営業外費用合計	3,894	6,865
経常利益	356,728	859,122
特別利益		
固定資産売却益	—	756
負ののれん発生益	—	3,294
保険解約返戻金	22,183	—
特別利益合計	22,183	4,051
特別損失		
固定資産売却損	—	738
事務所移転費用	—	13,329
特別損失合計	—	14,068
税金等調整前四半期純利益	378,911	849,105
法人税、住民税及び事業税	172,694	355,214
法人税等調整額	5,488	△7,625
法人税等合計	178,182	347,588
少数株主損益調整前四半期純利益	200,729	501,516
少数株主利益又は少数株主損失(△)	4,113	△983
四半期純利益	196,615	502,500

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	200,729	501,516
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	360	△799
為替換算調整勘定	△5,269	2,533
その他の包括利益合計	△4,909	1,733
四半期包括利益	195,819	503,250
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	191,950	504,445
少数株主に係る四半期包括利益	3,869	△1,194

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	378,911	849,105
減価償却費	47,760	62,246
のれん償却額	—	37,743
負ののれん発生益	—	△3,294
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△152	6,006
賞与引当金の増減額(△は減少)	△866	9,677
受取利息及び受取配当金	△719	△749
保険解約損益(△は益)	△22,183	—
支払利息	822	2,844
為替差損益(△は益)	180	△656
投資事業組合運用損益(△は益)	1,413	△3,077
投資有価証券売却損益(△は益)	—	763
固定資産売却損益(△は益)	—	△17
事務所移転費用	—	13,329
売上債権の増減額(△は増加)	△203,079	△261,241
たな卸資産の増減額(△は増加)	△18,509	△20,326
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△44,478	△14,142
長期前払費用の増減額(△は増加)	—	△306
未払金の増減額(△は減少)	21,338	18,943
未払費用の増減額(△は減少)	14,507	69,608
未払消費税等の増減額(△は減少)	△51,948	5,997
その他の流動負債の増減額(△は減少)	4,903	△10,631
その他	158	△6,536
小計	128,057	755,284
利息及び配当金の受取額	719	745
利息の支払額	△822	△2,870
法人税等の支払額	△265,577	△274,544
営業活動によるキャッシュ・フロー	△137,622	478,615
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△68,444	△69,536
有形固定資産の売却による収入	—	523
無形固定資産の取得による支出	△13,369	△10,554
投資有価証券の売却による収入	—	49,020
関係会社株式の取得による支出	—	△19,150
敷金及び保証金の差入による支出	△16,805	△65,517
敷金及び保証金の回収による収入	20,196	22,796
保険積立金の解約による収入	65,096	—
その他	2,000	2,053
投資活動によるキャッシュ・フロー	△11,326	△90,365

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	64	3,854
配当金の支払額	△57,724	△57,847
自己株式の取得による支出	—	△4
リース債務の返済による支出	△3,946	△3,626
財務活動によるキャッシュ・フロー	△61,607	△57,623
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,474	2,752
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△215,030	333,379
現金及び現金同等物の期首残高	1,597,677	2,184,673
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,382,646	2,518,052

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デバッグ 事業	メディア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	2,846,808	—	2,846,808	131,908	2,978,716	—	2,978,716
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,549	—	3,549	—	3,549	△3,549	—
計	2,850,357	—	2,850,357	131,908	2,982,265	△3,549	2,978,716
セグメント利益又は 損失(△)	753,897	—	753,897	△65,076	688,820	△336,528	352,292

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、Fuguai.com事業、ゲームソフトウェア開発のアウトソーシング事業及び映像制作事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△336,528千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

① 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デバッグ 事業	メディア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,144,026	259,681	4,403,708	255,412	4,659,121	—	4,659,121
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19,333	—	19,333	—	19,333	△19,333	—
計	4,163,360	259,681	4,423,042	255,412	4,678,455	△19,333	4,659,121
セグメント利益又は 損失(△)	1,258,451	26,933	1,285,384	△44,840	1,240,544	△381,726	858,817

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、Fuguai.com事業、ゲームソフトウェア開発のアウトソーシング事業及び映像制作事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△381,726千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

② 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結累計期間に、Aetas株式会社の全株式を取得し同社を連結子会社としたことに伴い、報告セグメントに「メディア事業」を加えるとともに、報告セグメントに含まれない事業セグメントを「その他」と区分しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

(単独株式移転による持株会社の設立)

株式会社デジタルハーツは、平成25年5月24日開催の取締役会及び平成25年6月27日開催の定時株主総会決議に基づき、平成25年10月1日に単独株式移転の方法により持株会社「株式会社ハーツユニテッドグループ」を設立致しました。

① 単独株式移転による持株会社設立の目的

当社グループは、「Made in JapanからChecked by Japanへ」というスローガンのもと、国内外で増加傾向にある消費者視点からのユーザーデバッグ需要と多様化する顧客ニーズに対応したサービス展開に注力して参りました。その過程において、韓国、米国及びタイ王国に子会社を設立し積極的に海外展開を推進するとともに、デバッグと関連する開発及びプロモーション等の工程における顧客ニーズの拡大に包括的に対応するため、開発アウトソーシング事業を展開する株式会社G&Dを設立し、メディア事業を営むAetas株式会社を子会社化するなど、グループを通じて複数のサービスを一貫してワンストップで提供できる体制を構築し、着実にグループ規模及びその事業範囲を拡大して参りました。

このような状況のもと、海外展開を加速させるとともに、新規事業を創造し、外部リソースとの親和的融合及び投資効率を鑑みたスピード経営を図るためには、経営と執行の分離をより徹底させた経営体制の確立と、事業子会社における事業運営の集中により各事業の専門性をさらに高めていくことが必要不可欠であると判断し、純粋持株会社体制へ移行することと致しました。

新たに設立される持株会社は、グループ全体の経営を行う統括会社として、新たなコーポレートガバナンス体制のもと、環境変化に対応した機動的かつダイナミックな経営判断により経営の機動性を向上させるとともに、効果的な経営資源の調達及び配分を行うことでグループの経営効率を向上させ、グループ全体の永続的な成長を実現して参ります。

当社グループは、今後もデバッグサービスの提供事業を軸としつつ幅広いビジネス展開を積極的に推進することで、デジタル社会に必要な企業集団として企業価値の向上を図って参ります。

② 株式移転の方法等

(i) 株式移転の日程

定時株主総会基準日	平成25年3月31日
株式移転計画承認取締役会	平成25年5月24日
株式移転計画承認定時株主総会	平成25年6月27日
上場廃止日	平成25年9月26日
持株会社設立登記日(株式移転効力発生日)	平成25年10月1日
持株会社上場日	平成25年10月1日

(ii) 株式移転の方式

株式会社デジタルハーツを株式移転完全子会社、持株会社を株式移転設立完全親会社とする単独株式移転です。

(iii) 株式移転に係る割当の内容(株式移転比率)

会社名	株式会社ハーツユナイテッドグループ (完全親会社)	株式会社デジタルハーツ (完全子会社)
株式移転比率	1	1

(注) a 株式移転比率

株式移転の効力発生日の前日における最終の株主名簿に記録された株式会社デジタルハーツの普通株式を保有する株主の皆さまに対し、その保有する株式会社デジタルハーツの普通株式1株につき設立する持株会社の普通株式1株を割当交付致しました。

b 単元株式数

持株会社は単元株制度を採用し、1単元の株式数は100株であります。

c 株式移転比率の算定根拠

本株式移転におきましては、株式会社デジタルハーツ単独の株式移転によって完全親会社1社を設立するものであり、株式移転時の株式会社デジタルハーツの株主構成と持株会社の株主構成に変化がないことから、株主の皆さまに不利益を与えないことを第一義として、株主の皆さまの所有する株式会社デジタルハーツの普通株式1株に対して、持株会社の普通株式1株を割当交付することと致しました。

d 第三者機関による算定結果、算定方法及び算定根拠

上記cの理由により、第三者機関による株式移転比率の算定は行っておりません。

e 株式移転により交付した新株式数

11,862,600株

(iv) 株式移転完全親会社の概要

商号 株式会社ハーツユナイテッドグループ

所在地 東京都港区六本木六丁目10番1号

代表者 代表取締役社長 CEO 宮澤 栄一

資本金 300,000千円

事業の内容 子会社等の経営管理及びそれに附帯または関連する業務

なお、株式会社ハーツユナイテッドグループは平成25年10月1日付けで、東京証券取引所市場第一部に上場致しました。

(v) 株式移転に伴う会計処理の概要

企業会計上の「共通支配下の取引」として処理致します。

(現物配当)

株式会社デジタルハーツは、平成25年10月1日開催の株主総会において、株式移転設立完全親会社である株式会社ハーツユナイテッドグループに対し保有する子会社株式の全株式を現物配当する旨を決議し、同日付けで配当を実施致しました。

① 現物配当の目的

本異動は、グループ組織再編の一環として、グループ全体の経営と執行を分離し、経営の機動性を向上させるとともに、各事業子会社の専門性を追求することを目的として、株式会社デジタルハーツ

の子会社6社を持株会社の直接の子会社とするために組織再編を実施するものです。

② 株式会社デジタルハーツの剰余金の処分について

株式会社デジタルハーツは、利益剰余金を原資として、保有する子会社株式を現物配当致しました。持株会社に対する配当財産の種類は、金銭以外の財産（普通株式）であり、株式会社デジタルハーツの直前帳簿価額とし、以下のとおりとなります。

会社名	株数	帳簿価額
DIGITAL Hearts Korea Co., Ltd.	100,000株	998,730千円
DIGITAL Hearts USA Inc.	15,590株	
DIGITAL Hearts(Thailand)Co., Ltd.	29,400株	
株式会社G&D	5,000株	
株式会社デジタルハーツ・ビジュアル	9,000株	
Aetas株式会社	1,192株	

(株式取得に関する合意)

株式会社ハーツユニテッドグループは、平成25年10月18日開催の取締役会において、株式会社ネットワーク21の発行済株式の一部を取得し、子会社化する「基本合意書」を締結することを決議し、同日付けで締結致しました。

① 株式取得の目的

需要拡大が見込まれるシステム検証領域において、当社グループの営業力・ノウハウ・リソース提供力と被取得企業が有する技術力を融合し大型システム検証案件等の受注体制を強化することで、より高度な検証サービスの提供による新規ユーザーの獲得、並びに受注拡大を実現できると考えております。

② 株式取得の相手先の名称

角田 博志

③ 対象会社の概要等

名称 株式会社ネットワーク二一
 所在地 東京都千代田区神田佐久間町一丁目8番4号
 代表者 代表取締役社長 角田 博志
 事業の内容 システム開発等
 規模(平成24年9月期)
 資本金 15,250千円
 売上高 766,320千円

④ 取得する株式の数、取得価額及び取得後の株式の所有割合

異動前の所有株式数 0株(議決権所有割合 0%)
 取得株式数 156株

取得価額 未定
異動後の所有株式数 156株(議決権所有割合 66.4%)

⑤ 支払資金の調達及び支払方法

未定

⑥ 日程

基本合意書締結 平成25年10月18日
株式譲渡契約締結 平成25年11月下旬(予定)
株式取得 平成25年11月下旬(予定)

4. (参考)株式会社デジタルハーツ 四半期財務諸表(個別)

この四半期財務諸表(個別)は「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づき当社が任意で作成したものです。

(1) (参考)株式会社デジタルハーツ 四半期貸借対照表(個別)

(単位:千円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,823,421	2,128,653
受取手形及び売掛金	1,079,996	1,335,842
たな卸資産	3,915	9,307
その他	155,604	170,137
貸倒引当金	△1,240	△824
流動資産合計	3,061,697	3,643,116
固定資産		
有形固定資産	220,328	228,822
無形固定資産	85,753	86,143
投資その他の資産		
関係会社株式	1,129,372	1,148,522
その他	415,689	411,632
貸倒引当金	—	△8,058
投資損失引当金	△136,791	△149,791
投資その他の資産合計	1,408,269	1,402,304
固定資産合計	1,714,351	1,717,270
資産合計	4,776,049	5,360,387
負債の部		
流動負債		
短期借入金	1,000,000	1,000,000
未払費用	405,708	487,592
未払法人税等	240,832	339,489
賞与引当金	27,021	28,778
その他	248,262	217,105
流動負債合計	1,921,825	2,072,966
固定負債		
資産除去債務	3,871	779
その他	2,948	1,361
固定負債合計	6,820	2,141
負債合計	1,928,645	2,075,107
純資産の部		
株主資本		
資本金	274,167	276,094
資本剰余金	234,166	236,093
利益剰余金	2,335,797	2,770,622
自己株式	—	△4
株主資本合計	2,844,131	3,282,806
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	3,272	2,473
評価・換算差額等合計	3,272	2,473
純資産合計	2,847,403	3,285,279
負債純資産合計	4,776,049	5,360,387

(2) (参考)株式会社デジタルハーツ 四半期損益計算書(個別)

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	2,841,019	4,078,776
売上原価	1,850,095	2,619,880
売上総利益	990,923	1,458,895
販売費及び一般管理費	572,129	627,886
営業利益	418,794	831,009
営業外収益		
受取利息	118	620
受取配当金	575	191
投資事業組合運用益	—	3,077
経営指導料	—	4,801
助成金収入	4,583	340
その他	5,157	1,252
営業外収益合計	10,434	10,283
営業外費用		
支払利息	91	2,377
投資有価証券売却損	—	763
投資事業組合運用損	1,413	—
為替差損	19	1,037
その他	39	208
営業外費用合計	1,562	4,387
経常利益	427,666	836,906
特別利益		
事業譲渡益	7,556	—
保険解約返戻金	22,183	—
特別利益合計	29,739	—
特別損失		
投資損失引当金繰入額	46,791	13,000
事務所移転費用	—	13,329
特別損失合計	46,791	26,329
税引前四半期純利益	410,613	810,576
法人税、住民税及び事業税	171,526	328,346
法人税等調整額	△ 10,054	△ 10,683
法人税等合計	161,472	317,662
四半期純利益	249,141	492,913

5. 補足情報

(1) 生産、受注及び販売の状況

① 生産実績

事業の特性上、該当事項はありません。

② 受注実績

当社グループのデバッグ事業及びメディア事業は、受注から役務提供までの所要日数が短く、期中の受注高と販売実績とがほぼ対応するため、記載を省略しています。

③ 販売実績

当第2四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

区分		当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	
		金額(千円)	前年同四半期比(%)
デバッグ 事業	コンシューマゲームリレーション	1,601,737	33.0
	デジタルソリューションリレーション	1,380,505	71.0
	アミューズメントリレーション	1,161,783	39.1
	小 計	4,144,026	45.6
メディア事業		259,681	—
その他		255,412	93.6
合 計		4,659,121	56.4

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 前第3四半期連結累計期間より、Aetas株式会社の全株式を取得し、同社を連結子会社としたことに伴い、「メディア事業」を新たに報告セグメントに加えております。
 4. 前第3四半期連結累計期間に実施した報告セグメントの変更に伴い、販売実績の前年同四半期比較は前年同四半期数値を変更後のセグメントに組み替えて行っております。
 5. 前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合については、当該割合が100分の10以上である相手先がないため記載を省略しております。